

報告事項 2

平成30年度全国学力・学習状況調査の結果について

このことについて、別紙資料に基づき報告します。

平成30年8月22日

義務教育課

## 平成30年度全国学力・学習状況調査、愛知県の結果について

平成30年4月17日（火）に小学校6年生と中学校3年生を対象に実施されました「全国学力・学習状況調査」の結果について、文部科学省から情報提供がありましたので、本県の結果の概要についてお知らせします。

### 1 本県の実施状況

	学校数（校）		児童・生徒数（人）	
	愛知県（公立）	全国（公立）	愛知県（公立）	全国（公立）
小学校・小学部	980	19,386	66,896	1,030,031
中学校・中学部	427	9,597	62,919	967,196

- ・平成30年4月17日に実施した学校について集計
- ・名古屋市、特別支援学校を含む。

### 2 教科に関する調査の結果

#### (1) 本県の調査区分ごとの傾向（公立）

校種	調査区分 【問題数】	県 / 国 上：平均正答率（%） 下：〈平均正答数〉（問）	主な傾向 (平均正答率と正答数別の分布の比較)
小学校	国語A（知識） 【12問】	68 / 70.7 〈8.1 / 8.5〉	全国より低く、上位層が少ない。
	国語B（活用） 【8問】	52 / 54.7 〈4.2 / 4.4〉	全国より低く、上位層が少ない。
	算数A（知識） 【14問】	61 / 63.5 〈8.5 / 8.9〉	全国より低く、上位層が少ない。
	算数B（活用） 【10問】	50 / 51.5 〈5.0 / 5.1〉	全国よりやや低く、分布は全国とほぼ同様である。
	理科（知識・活用） 【16問】	58 / 60.3 〈9.4 / 9.6〉	全国よりやや低く、上位層が少ない。
中学校	国語A（知識） 【32問】	76 / 76.1 〈24.3 / 24.3〉	全国と同程度で、分布は全国とほぼ同様である。
	国語B（活用） 【9問】	61 / 61.2 〈5.5 / 5.5〉	全国と同程度で、分布は全国とほぼ同様である。
	数学A（知識） 【36問】	69 / 66.1 〈24.7 / 23.8〉	全国より高く、上位層が多い。
	数学B（活用） 【14問】	49 / 46.9 〈6.9 / 6.6〉	全国より高く、下位層が少ない。
	理科（知識・活用） 【27問】	68 / 66.1 〈18.4 / 17.9〉	全国より高く、上位層が多い。

- ・名古屋市、特別支援学校を含む。

※ 都道府県及び政令指定都市の平均正答率については、整数値で公表しています。

#### (2) 本県の傾向

- ・平均正答率は、小・中学校全ての調査で全国平均の±3%以内であった。
- ・中学校では、国語・数学・理科いずれも全国と同程度以上の結果が得られた。特に、数学・理科は、知識、活用共に全国の平均正答率よりも高く、上位層が多いという特長が見られた。

### 3 児童生徒質問紙調査の結果

#### (1) 全国との比較

ア 肯定的な割合が高い主な項目		県／国(%)	差
小学校	・自分にはよいところがある。	84.4／84.0	+0.4
	・家で学校の宿題をしている。	97.6／97.1	+0.5
中学校	・自分にはよいところがある。	80.3／78.8	+1.5
	・家で学校の宿題をしている。	94.8／91.6	+3.2
イ 肯定的な割合が低い主な項目		県／国(%)	差
小学校	・家で学校の授業の予習・復習をしている。	58.1／62.6	-4.5
	・5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んだ。	75.4／76.7	-1.3
中学校	・家で学校の授業の予習・復習をしている。	52.8／55.2	-2.4
	・1,2年生の時に受けた授業では、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んだ。	71.0／74.3	-3.3

#### (2) 傾向と考察

- ・小・中学校共に、「自分にはよいところがある」という質問に対して肯定的に回答した児童生徒が多く、自己肯定感をもっている傾向が見られた。
- ・小・中学校共に、「家で学校の宿題をしている」という質問に対して肯定的に回答した児童生徒は多い。一方、「家で学校の授業の予習・復習をしている」と回答した児童生徒は少ないという傾向が見られた。
- ・また、「課題の解決に向けて、自分から取り組むことができた」という意識がやや低い。これらのことから、与えられた課題に対しては、真面目にきちんと取り組む児童生徒が多いものの、自ら考え、計画的に学習に取り組むことに課題があると推測できる。

### 4 調査結果の活用に向けた愛知県の取組

- (1) 全国学力・学習状況調査の結果を詳細に分析し、県としての課題を明確にする。
- (2) 分析結果から得られた課題に対する具体的な授業改善等の解決策を示した「学力・学習状況充実プラン」を作成し市町村教育委員会及び小・中学校に対して活用を促す。
- (3) 小・中学校において、個に応じたきめ細かな指導を行うために、少人数指導を継続する。
- (4) 瀬戸市と安城市に学力向上に関する研究を、また一宮市と田原市にアクティブ・ラーニングに関する研究を委嘱し、その取組内容を市町村教育委員会及び小・中学校に対して広く周知する。

### 5 市町村別、学校別の平均正答率等の公表について

県としては、本調査の実施要領に則り、市町村別、学校別の平均正答率等を一覧にした公表は行わない。

## 全国学力・学習状況調査の結果に対して情報公開 請求があった場合の県の対応について

愛知県教育委員会は、全国学力・学習状況調査の結果に対して情報公開請求があった場合に、以下のとおり対応する予定ですが、各市町村教育委員会におかれましても、「平成30年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領」及び本書を参考にして、適切な対応をお願いします。

なお、情報公開請求に対する開示・不開示の判断は、それぞれの地方公共団体における条例に基づいて行われるものであり、本書に基づく愛知県教育委員会の対応と必ずしも同様の対応が必要となるわけではありません。

### 1 愛知県教育委員会において情報公開請求の対象となる可能性がある情報

- ① 学校別の調査結果、② 市町村別の調査結果、③ 教育事務所別の調査結果
- ④ 県全体の調査結果

### 2 学校別の調査結果の情報開示について

#### (1) 愛知県教育委員会が開示する場合の基本的な考え方

愛知県教育委員会は、少なくとも全国学力・学習状況調査の調査結果については、参加主体である各市町村教育委員会に、公表に関する方針、開示に対する同意の有無等を確認の上、各市町村教育委員会が公表又は慣行として公とする情報は開示とする。残りの部分については、実施要領により定められていることを十分に留意した上で、下記(2)の考えに基づき開示・不開示の決定を行う予定である。

#### (2) 開示する場合の具体的な開示部分についての考え方

ア 平均正答数、平均正答率、中央値、標準偏差など児童生徒の学力に関わる結果については、学校別及び市町村別の一覧等を開示することで序列化や過度な競争を煽って本調査に具体的な支障を及ぼす恐れが高いことから、学校別及び市町村単位の結果は原則不開示と考えています。

イ 学習状況を調査する質問紙調査については、開示しても序列化や過度な競争を煽って、本調査に具体的に支障を及ぼすおそれが生じる可能性は低いことから、原則開示と考えています。